

コープ災害ボランティア ネットワークニュース

第41号

2010年9月発行
東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティアネットワーク幹事会
03-3383-7800

第2回 池袋防災館 体験・見学

いつどこで起こるか分からない災害に備えて、映像や擬似体験をとおして災害の状況を知り、災害に遭った時の対処法を学びました。

映像から学ぶ



首都直下の大地震発生による町の様子や被害状況を想定した映像を見ました。映像では、現在建築中のスカイツリーに近い下町を舞台に、被害状況や、町の人々の災害への対処の様子が描かれています。災害をイメージし、それぞれの立場でどのように対処したら良いのか学びました。

体験から学ぶ



地震:グラっときたらまず「身の安全」テーブルの下に体を入れ、家具などの転倒や落下物から身を守ろう。

消火:火事を発見したらまず「火事だー!」と大きな声で周りに知らせよう。被害を最小限に食い止めるため、消火器の使い方を学びました。ちなみに東京の火災原因のトップは放火です。



煙:火災による煙や有毒から身を守るには、ハンカチなどを口に当て、体をかがめて低い姿勢で非難しよう。講座での最後の体験で、インストラクターの方から真面目な団体とお褒めの言葉?があり、煙の増量サービスがありました。

体験・見学から感じたこと

(受講生の感想より)

❖ 擬似ではあっても一度体験しておく、いざという時ぜんぜん違うと思います。ビデオのように、大災害の時は、自分が地域を守るという意識をなるべく多くの人がもつのが理想ですね。

❖ 知識がなければいざという時に動けなく、役に立たないということがわかりました。

❖ 煙と熱の怖さが印象的でした。火事は焼死より有毒ガスや気道がはりついて命を落とすのだと知りました。

防災のススメ

行ってみよう! 防災館

東京には体験・学習をとおして、防災に対する知識・技術・行動力を身につけるための施設があります。東京消防庁の、池袋・本所・立川の防災館や区・市の防災センターで行っている体験・学習に行ってみよう!

- ◆ 池袋防災館 ☎03-3590-6565
- ◆ 本所防災館 ☎03-3621-0119
- ◆ 立川防災館 ☎042-521-1119

@消防防災博物館
<http://www.bousaihaku.com/>
消防の歴史、防災知識、緊急時の簡単料理などたくさんのが学べます。(クイズもあり)

- ◆ 品川区防災センター ☎03-5742-6697
- ◆ 目黒区防災センター「地震の学習館」 ☎03-5723-8517
- ◆ 北区防災センター「地震の科学館」 ☎03-5723-8517

* その他の自治体にもあるかもしれません。自分の住んでいるまちの防災センターや防災計画にも関心を持ってみよう。

東京都・文京区合同総合防災訓練

障がい者の方々と歩く防災のまち歩きに参加!

毎年行われている東京都と区市町村との合同総合防災訓練が8月29日(日)に開催されました。

今年は文京区との合同で、これまでの広い公園や河川敷での訓練とは違い、ビルや住宅が立ち並ぶ都心での訓練でした。東京都生協連では、防災・減災や災害復興支援などの取り組みのパネル展示や、防災・減災について学べるパソコンでのクイズを行いました。

また、この訓練の一環として、文京区ボランティア・市民活動センターと東京ボランティア・市民活動センターが中心となり、障がい者の方々と歩く“防災のまち歩き”が実施され、CO災ボのメンバー13名がボランティアとして参加し、“防災のまち歩き”の講座で学んだことを活かしました。



東京都生協連のテントでは、防災・減災や三宅島などへの災害復興支援などの取り組みのパネル展示や、防災・減災について学べるパソコンでのクイズを行いました。



“防災のまち歩き”の参加者約65名が本駒込駅に集合し、この訓練の目的などのオリエンテーションを受けました。

グループごとに地図を見ながら出発! 駅の構内は広いけど、エレベーターは1台。車椅子も1台しか乗れないね。地下で何かあったら、とっても大変。

毛布で担架を作り、けが人を運ぶ訓練に遭遇。障害を持ち青年が、授産所の皆に伝えようと真剣に聞いていました。



「災害時に避難所まで行くのにはどのような道、場所を通ったらよいでしょうか?」などの防災クイズをとことこで行い、グループみんなで考えあいました。

模擬被災地体験訓練会場を通り、道路にできた段差での車椅子の移動を体験しました。補助する3人の息があわないとうまくいかないね。

グループ内はもちろんのこと、別のグループとも交流ができ、車椅子体験をし、操作の仕方やどんなことが危険なのかを障がい者の方から学びました。

訓練を終えて:、講座で学んだ“防災まちあるき”を思い出しながら、災害時はどうなるのか創造し、障がい者の方々への支援についても考えさせられる訓練でした。障害のある方やいろいろなボランティアの方々との初めての訓練でしたが、楽しく交流しながら学ぶことができました。

取り組みの目的: 災害時のまちをイメージしながら、障がい者とともにまちを歩き、災害時の障がい者支援についても大きな気づきを得る。

